

令和5年度大学ポートレートステークホルダー・ボード 主な意見
(令和5年12月7日開催)

1. ステークホルダーごとのニーズ把握について

- 高校生の意見を聞くのも重要だが、例えばオープンキャンパスにサポーターとして参加する在学学生から意見集約をするなどしてもよい。潜在的な入学者に日々接している現役大学生のピアサポーターは自身もかつて大学を選択する立場であり、当時欲しかった情報をより鮮明に認識できていて、ギャップの分析も可能であると推察する。
- 様々な学生や関係者から意見を聴取できると、公表項目の妥当性等についても貴重な意見が得られるのではないか。

2. 公表項目について

- 退学、留年等に関する情報の公表について検討中とのことだが、それらの情報が掲載されている書籍が既にあることや、志望校を考える際には知っておきたい情報であることから、前向きに検討いただきたい。

3. 情報の公表状況及び参加校への対応について

- 医師国家試験受験資格で検索したところ、医学部がある大学を含め相当数の国立大学が表示されない。高等教育の修学支援新制度の対象校についても表示されない国立大学があった。大学の自己申告による検索結果であることの表示もなく、初心者である受験生にとってはミスリードにつながる可能性が非常に高い。
- 記載内容の適正化について、多数ある項目の全ては確認できないため、変更があった箇所（例えば今回の認証評価結果の記載や形式を統一した点）に限定した確認になることや、実際の入力は大学に対応を依頼する形になり、十分徹底されるとは限らないところが大学ポートレートの難しい点かと思う。
- 高等教育の修学支援新制度の対象校については、まだ全大学が入力していないのだろうと思うが、最低限必要な情報であり急ぐ方がよい。
- 自身の勤務する高等学校で大学ポートレートを利用した進路指導を行っているが、進学実績の多い特定の分野の私立大学を調べる際、内容の記載がほとんどなく大学へのリンクのみになっているという意見が生徒から多く寄せられる。大学ポートレートの機能としては比較ができないと意味がないと感じている。
- 多様な大学があり、それぞれ掲載したい情報があるため単純比較には終わらないようにしてもらいたい。掲載文章が長過ぎる大学や短過ぎる大学があり、大学ポートレートにどの程度の分量を掲載するのが適切なのかは各大学の工夫も必要と思われる。

- 大学改革で有名な大学であっても、詳細な情報は大学へのリンクのみになっているページや情報の更新がされていないページが見られる。大学自身も大学ポートレートをさらに活用してもらいたいと思う。

4. 情報活用について

- 大学間での利用について、日常的にBIツールを使用している大学のIR業務担当者であれば欲しいデータが取り出せるかと思うが、IRの専門家ではない意思決定の担当者は、分かりやすく数値のみ表示されている方が他大学の情報を瞬時に掴むことができるかもしれない。例えばTimes Higher Educationの「World University Rankings」における個別機関のページでは項目ごとの結果を各種グラフで見せるとともに、基本統計の数字を大きく掲載するなど、視覚に訴える表示がされている。
- 学部長や学科長といった意思決定のメゾレベルのリーダーからも意見聴取を行うと、より実質的な意見が伺える。また、自大学の学部・学科の情報が十分に大学ポートレートを通じて可視化されていないと大学側が気付けば、大学ポートレートのデータを充足する方向に動く可能性もある。

5. 全体の方向性について

- 従来から気になっている全体の方向性については、要望が多い中でどの情報をどのような形で適切に公表し運用していくのか、大学ポートレート運営会議で今後の方向性を検討いただきたい。目的が多過ぎると運用が難しくコストの問題も生じる。収集するデータと共有するデータ、公表するデータが完全に一致するものではなく、部分的に重なり合いながら上手く活用できればよいと考えている。

6. その他

- 直近2年度分の月別アクセス数の推移を見ると、7月頃が高く12月に落ち込む傾向があると思われる。来年度も同じ傾向が予想されるのであれば、今後改善を予定している事項についても、アクセスが増える時期の前に対応を済ませる方がインパクトは大きいのではないかと。
- 大学を選ぶ際はやりたいことから志望校を探すことが前提ではあるものの、実際には難易度や奨学金を含めて自分が行ける学校から志望校を決める面がある。選択した項目について比較結果が並ぶようなインターフェースがあると、生徒は自分の条件で大学を絞りやすくなる。
- 学校教育法上の大学が対象となっている制度だと理解はしているが、大学校・短期大学校へ進学する生徒もいるため、産業教育や職業教育も進めていくのであればそれらの学校も大学ポートレートに掲載してほしいという希望がある。

以上